

09 連続講座〈沖縄・歴史と現在〉への賛同のお願い

ことし 2009 年は、1609 年の薩摩・島津氏による琉球侵略から 400 年、1879 年の日本国家による琉球処分から 130 年の節目の年にあたります。沖縄では本年 1 月 30 日にこの「400 年」「130 年」を「問う会」が結成され、シンポジウムなどが予定されています。

沖縄講座では、この〈沖縄からの問い〉に、どう日本（ヤマト）から呼応していくのか、改めて〈沖縄・歴史と現在〉を学ぶことを通じて、日本の〈アジアにおける侵略と戦争の近現代史〉を総括する視点を手放すことなく、考えたい。そんな思いから、以下の通り、09 連続講座を企画しました。

みなさんの参加・賛同をお願いします。

★ ★ ★

第 1 回 1972 〈復帰＝再併合〉を問う 7 月 11 日（土）14 時 新横浜スペースオルタ

■長編ドキュメント『反国家宣言～非日本列島地図完成のためのノート』（16 分、65 分）

- ・「沖縄青年同盟の「沖縄語裁判闘争」からはじまり、非日本列島地図を描くように、大阪の沖縄人集落、1972 復帰をはさむその前後の沖縄に移動、さらに八重山の台湾人移住者を訪ね、それから一挙に北へターンし北海道のアイヌへと至る旅の記録」（仲里効『沖縄 イメージの縁から』未来社 2007）です。〈祖国復帰〉ではなく〈沖縄の解放〉を求めた沖縄青年同盟は、1971 年の沖縄返還協定を審議した国会で爆竹を鳴らして抗議し「全ての沖縄人は団結して決起せよ」のピウをまいて逮捕され、裁判ではうちなーぐちで日本国家に異議を申し立て「沖縄語裁判闘争」を展開しました。1972 年にプロダクション犀により制作され、続編の「アイヌ・シタツピリ」と合わせて山崎佑次監督自ら再編集し 95 年の山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映された貴重なフィルムです。山崎監督のご厚意をえて、横浜上映が実現しました。

■映像の解説と講演 仲里 効さん

- ・南大東島生まれ。元『EDGE』編集長。著書に『オキナワンビート』『ラウンドボーダー』『オキナワ、イメージの縁』、共著に『沖縄の記憶／日本の歴史』『複数の沖縄』編著『沖縄／暴力論』など。映画『夢幻琉球・つるヘンリー』共同脚本、2003 山形国際ドキュメンタリー映画祭沖縄特集〈琉球電影列伝〉コーディネーター。『コンディションデルタ沖縄』制作。沖縄講座では 2001 年 5 月にも「島尾敏雄〈ヤポネシア論〉の射程」のテーマで仲里さんに講演していただきました。「反国家宣言」には、若き日の仲里さんも登場します。

第 2 回 沖縄・占領と現在 今秋（日時・会場未定）

■講演 田仲 康博さん

- ・「占領が生み出した時空間に未だ囚われの身となっている沖縄において、今もっとも必要なことは、「復帰」の意味を問い直すことなのだ」（『イモとハダシ～占領と現在』所収「琉球大学とアメリカニズム」から）。国際基督教大学教員。専攻は社会学・メディア論・文化研究。共著に『沖縄に立ちすくむ』『メディア文化の権力作用』など。元『EDGE』編集委員。

★ ★ ★

2009 年 2 月 17 日、日米外相会談で「在沖米海兵隊グアム移転協定」が署名され、国会承認案件として 24 日に閣議決定され上程されました。この協定は、2006 年 5 月の日米「合意」米軍再編ロードマップの内容を、条約に準ずるものとして既成事実化するための「米軍再編推進協定」です。この背景には、米軍再編の要とされる普天間基地の辺野古沿岸移設＝巨大軍事基地建設の作業が沖縄の人々の粘り強い抵抗で進捗しない事態と自公政権の先行きに対する米オバマ政権の苛立ちがあると推測できます。協定では、これまで「抑止力の維持」とされていたものが「抑止力の強化」と表現され、米軍再編が「地元負担の軽減」どころか日米軍事再編・基地強化に他ならないことを自ら暴露しています。増え続ける米兵の事件・事故、キャンプハンセンで強化される実弾射撃訓練の被害、騒音をまき散らす嘉手納基地への F22 一時配備や、日米共同訓練など、基地強化の動きは顕著になっており、沖縄の人々の怒りを買っています。

日米両政府による沖縄の要塞化・軍事属領化の策動を許さず、日米軍事再編・基地強化に反対し、基地と軍隊のない社会をめざす闘いを、沖縄の人々と共に！

2009 年 3 月

沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座

連絡：Tel&Fax045-434-3896 深沢 <http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

◇個人 1000 円/口 団体 2000 円/口 多くの賛同を！